

第 20 回 科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会
原子力科学技術委員会 原子力研究開発・基盤・人材作業部会
における和田委員発言内容

一般社団法人日本原子力産業協会

2024 年 4 月 18 日開催の第 20 回原子力研究開発・基盤・人材作業部会において、当協会和田部長より委員として以下の発言を行いました。

一点目は、人材育成についてです。

新試験研究炉の利用分野は、物理系や材料系、生物系、医療系等の多様な分野が想定されますので、原子力・放射線の専門分野に限らず、関係する分野の人材の裾野が広がることを期待します。

試験研究炉の新規建設は、現状では大変貴重なプロジェクトだと思っておりますので、広がりのあるプロジェクトを目指して、幅広い人材の確保・育成につなげていただきたいと思います。

二点目は、医療用 RI 製造についてです。

医療用 RI については、国内での製造が大いに期待されている事業であると思っております。

また、医療分野の利用というのは、国民にとって最も分かりやすいメリットの一つでもあり、原子力や放射線の理解にも役立つものと考えられます。

実際、新試験研究炉で医療用 RI を製造するのは先の話になるかと思っておりますが、ぜひ引き続き検討をお願いしたいと思います。

三点目は、地域経済への貢献についてです。

新試験研究炉を企業が幅広く利用すること、すなわち、本日のご報告にありましたような産業利用のニーズに結びつけることは、事業の価値をさらに高めるものであると思っております。

新試験研究炉が、RI 製造や中性子の産業利用の拠点となれば、新たな企業が地域に進出する可能性も高いと思われれます。

このような、「地域経済の持続的発展への貢献」といった要素も、今後の検討の中で考慮していただければと思います。

以上

< 参考 >

[原子力科学技術委員会 原子力研究開発・基盤・人材作業部会（第 20 回）（文部科学省）](#)